

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

④その他

●大阪市立大学文学研究科

「国際発信力育成インターナショナルスクール」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

特定の教員、とくに英語担当教員に負担が偏る。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

大学院生が英語による発表を行うためのトレーニングプログラムの一部を外注した。発表指導のうち専門領域の指導については指導教員の協力を強く求めた。また、インターナショナルスクール日常化プログラムにより、それぞれの教員が自分の研究分野に引きつけながら小規模の国際フォーラムを開催しやすくした。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

トレーニングプログラムの外注により英語教員の負担が少しだけ軽減した。インターナショナルスクール日常化プログラムにより、より広い層の教員の協力が得られつつある。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《人社系》

●大阪市立大学文学研究科

「国際発信力育成インターナショナルスクール」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

インターナショナルスクール集中科目に招聘予定の講師が突然来日できなくなり、集中講義の開講が危ぶまれた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

遠隔同時通訳用に購入したテレビ会議システムにより、韓国の大学と回線を結び、遠隔講義をすることができた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

インターナショナルスクール日常化プログラムも含め、テレビ会議システムを利用することにより、海外の連携大学と遠隔国際セミナーを行う可能性が確認できた。